

放送人の会

No.62
2013.9.13

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel.&fax03-3221-0019 E-mail info@hosojin.com

発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野勉

編集担当 伊藤雅浩 (広報委員長・編集長)、鈴木典之、前川英樹 (HP担当)、松尾羊一 事務局 佐藤真美子、須斎恵美子

新会員獲得にむけてパンフレットを一新

理事長 今野勉

会のPR用パンフレットを新しくしました。題して『放送人の会』を知っていますか。一般社団法人化を機に、会員の入会資格の中を少し広げました。より多くの会員を迎えらるようになりました。放送人の会の今年度後半の活動目標を、新会員の勧誘に決めました。その理由は次の通りです。

同封のパンフレットにもありますように、これまでの放送人の会の活動は「放送人の証言」「名作の舞台裏」「放送人グランプリ」そして「日韓中テレビ制作者フォーラム」等々、多くの成果をあげてきました。その実績は、業界にとつて貴重な財産として注目されるようになりました。これらの活動を引き継ぐ次の世代の会員が是非とも必要なのです。さらに、業界以外の、テレビ文化に強い関心を持つ人々をも会員として迎えて、厚みのある活動ができるようにしたいというのも理由のひとつです。

会員の皆様にお願ひがあります。皆様の人脈の中に、新たに会員にしたいというひとがいまいたら、このパンフレットを利用して是非勧誘して頂きたいのです。勧誘したい人の名前を事務局に知らせてくれるだけでも結構です。皆様の協力を強くお願いする次第です。

まだ見ぬ友へ 石橋冠

酷暑でしたが、お元気にお過ごしでしょうか。

まだ見ぬ友へ、「放送人の会」から入会を勧誘する呼びかけをしたいと思ひます。

創設から16年、今般NPO法人になったことを弾みとし、積極的に会員を募ることにしました。今の活動を充実させ、会員相互の交流をさらに活性化しようというもくろみです。

この会の主旨や活動状況については、別紙のパンフレットに詳述してあるのですが、ここでは私の体験を率直に語っておこうと思ひます。

実は私には、ずいぶん逡巡したあげく入会したいきさつがあります。

「敷居が高い」と思つたのです。尊敬すべき大先輩の居並ぶ会員名簿を見て恐怖を感じ、さらにメディアを客観的に考えたり、テレビ論を語つたりする習性のなかつた自分は、なにか意見を求められたりしたら絶句するだろうと不安になりました。

結局、3年ほどためらつた後に、当時の大山勝美会長の鶴の一声で、とびこんだわけですが。

結論を言うと、自分の抱いていた恐怖や不安は、バカバカしい杞憂にすぎなかつたと、直ぐに気づきました。

「放送人の会」は、自由に考える人たちの、自由な意思の集合体でした。縦の関係、横の関係に垣根がなく、話題もすぐ共有ができ、無意識のうちに多くの刺激を受け、勉強もできたように思ひます。

「知り合い」「語り合い」、ときに思ひつければ行動に移す。事実、そうして多くの催事が立ち上がり、継続しています。放送界の未来を、応援する理念さえあれば、なんでもOKなのです。

私がいつも感動するのは、毎年総会のあとに開催される「放送人グランプリ」です。審査員の具体的な顕彰理由の説明応える受賞者たちの本音の言葉のやりとりが胸がうたれます。青春を賭けた仕事への愛、生涯を貫くであろう仕事への矜持が伝わってきて、自分がこの会について良かったと思ひます。

皆さん、どうか「敷居が高い」とか、「おこがましい」といったような懸念を捨てて、普段着の気分で入会してください。

また、最後になりましたが、地方局の皆さんにも積極的な参加を呼びかけます。全国に輪をひろげ、会の血流を鍛えていきましょう。

放送人の会・その歩み

あなたも入会しませんか？

「放送人の会」が発足（1997年）して今年で16年が経ちました。

この4月、組織の充実化（若返り）に、多様な事業運営のさらなる発展を考え、一般社団法人に組みかえ、名誉会長 川口幹夫、会長 今野勉、副会長 石橋冠 の下に委員会制による合議システムを一元化しました。

さて、「放送人の会」とはどんな団体でしょうか。これを機に関心をお持ちの皆様は、会員相互の交流誌「放送人の会 会報」の記事や記録を参考にして、16年にわたる本会の動向を「案内することになりました。

「放送人」という言葉をはじめて世に示したのは梅棹忠夫さん（第1回放送人グランプリ特別功労賞贈賞）でした。

今野勉会長はこの言葉の出自は論文『新人種の発声』（放送朝日）1961年掲載）にあると指摘しました。

梅棹さんは「ラジオのテレビも放送してしまえばおしまいだ。どんなに苦心してつくりあげた番組も、1回こっきり、あとになんにもこのらない」のに「かれらはまことに創造的であり、またエネルギーシユである。しかし、かれらのつくっているものが、かれらの創造的エネルギーの消耗にほんとうにあたい

するものであろうか」と肯定的好意的（半ばは皮肉に）述べ、「放送人というのは、戦後に発生したあたらしい職業集団である。戦前には、こういうものはなかった」から「かれらがあれだけのエネルギー放出をやっている以上は、現代の健全な哲学にもとづいて、エネルギー放出を正当化するに足るなんらかの論理的回路が、かれらの心のなかには容易さ

れているはずなのだ。この点をはつきりさせることが放送人というものの内的人間像の、論理的内面をあきらかにすることにもなるであろう」としたためました。

梅棹論文がつけつけた課題をまさに「放送人」として継承しようと生まれたのが「放送人の会」なのです。

では、具体的に放送人とは何を誰を指すのか。規約によれば（1）「放送番組、放送情報、放送広告の企画・制作・編集、その他放送関連事業全般に携わっている人、携わったことのある人」および、（2）「放送文化、あるいは放送の産業・技術・制度などについて研究活動を行っている人」を指すことにしました。

さらに放送に関心をもつ市民グループやネット・メディアから発信するデジタル・ネイティブ（ネット人）の動向と意識に注目し、いずれは会員化も視野に入れた幅広い団体です。

証言による創成期の検証に名作ドラマ（作品の公開上映）の場を設けたり、ドキュメンタリーや情報バラエティーの歩みなどを辿り、「過去」を「現代」（あるいは未来）へ架橋するイベント事業があります。

事業活動（その1）

証言による創成期の検証に名作ドラマ（作品の公開上映）の場を設けたり、ドキュメンタリーや情報バラエティーの歩みなどを辿り、「過去」を「現代」（あるいは未来）へ架橋するイベント事業があります。

（1）「放送人の証言」

テレビ60年を迎えましたが、不思議なこと（第一世代）の証言を手始めに、ついで時空間をリアルタイムに共有する特性を模索した第二世代も視野に入れ、当事者の映像と声による膨大なオーラル・ヒストリーを完成させようと、放送文化基金の援助も得て「放送人の証言」事業を最優先に手をつけました。



「証言」の推進者・故久野浩平氏

スペースの都合で取材対象の方々の名前は省略させていただきますが、証言は創成期の演出家や関係者の苦心談や秘話に限りません。カメラや美術、照明、音響、衣装、消えもの

など裏方関係者によって往年の画面が「再現」されます。すでに177名が登場し、ロングインタビュー後に物故者になられた方もすでに4、50人に達します。まさに「放送現場人の遺言集」（藤井隆）でもあります。

個人の才能や資質にたよる文学や絵画、演劇とはちがいで、いや露出が劇場に制約される映画とも異なる放送が及ぼす影響（共感であれ反発であれ）を考えれば、放送という文化的磁場の存在の一端がかいまみえる「証言」は、タテ・ヨコ・ナメに人脈図に事件、社会現象を掛け合わせれば、放送考古学的な放送自分史が放送史に着地する試みも進行中（後述）です。

（2）「名作の舞台裏」

放送番組センターと横浜市の共催方式をとって、放送ライブラリーにあるホールで年間2、3回開催する事業が「名作の舞台裏」です。



「名作の舞台裏」の客席・イイノホール

かつての名作、例えば「岸辺のアルバム」

や「北の国から」「大地の子」など以外に比較的直近の傑作ドラマ、例えば「のだめカンタービレ」や「火の魚」「アイシテル」など話題になった作品も織り交せて場内上映し、プロデューサーや演出家、作家、主役級の俳優を招き、ドラマの周辺や秘話を語り合う催しです。再上映ならリピートで済ませますが、多忙なスケジュールをかきわけドラマ関係者に出演交渉ができるのは、会員特有のフツキング・マターが機能するからです。加えて運営と総会司会はドラマ制作のAからZまで知悉している会員（石橋元、堀川とんこう、渡辺敏史ら）があたり、会場を盛り上げています。

今では再放送やDVDオン・デマンドで旧作に接する機会はありますが、記憶の残像感や肌触りまでは伝えられません。それゆえか入場希望者も激増、入場券はプラチナ券化し、いわゆる常連のほかに「anego」のようにドラマと同世代のキャリア女性が目立つ、そんな気運から収容数の多い都内のホールで催すケースも出てきました。

(3) 『人気番組メモリー』

ここでは社会現象化した高視聴率人気番組のタレント、例えば大橋巨泉や萩本欽一などを招き、「視聴率もまた批評である」時代であった高揚期のテレビとその背景をゲストを交えて進めます。もちろん「日曜美術館」のような一定のファンを抱えた長寿番組への目配りも忘れておりません。

(4) 『放送人の世界と人作品』

公開セミナー形式で研究者やメディア専攻の学生を対象にドラマやドキュメンタリーの分野で手法的に注目された制作者（例えば牛

山純一、佐々木昭一郎、大山勝美、今野勉、岡崎栄など）を招き、連続上映する作品をテキストに映像のつ革新性を2、3日間にわたって集中公開するセミナーです。

『放送人グランプリ』選奨事業

当会の創立時に「現場が現場を選ぶ賞」の独自性を力説し、グランプリを提案したのは故村木良彦さんでした。ギヤラクシー賞、放送文化基金賞、民放連賞、芸術祭と幾多の賞があります。しかし、互選によるATP賞以外では、会員である元現場人や現役制作者個人が1票を行使する「現場が現場を選ぶ賞」は放送界では唯一の存在です。



2013「放送人グランプリ」贈賞式・記念写真

現審査委員長堀川とんこうさんは「村木良彦さんが果たされた役割を遺漏なく引き継ぐ

ことは所詮無理と承知しつつお引き受けした

が、想像以上に気骨の折れる作業だった（中略）放送グランプリはユニークでありたい、と多くの会員が考えている。他の賞が見落とされた隠れた秀作を作った制作者関係者を見落とすまい、地道に努力している真の放送人を励ましたい、と思っている。選考委員会も同じである。対象は当然バラける。（中略）推薦状に見られる会員各位の目配りの良さには驚かされた。これだけの数の目がウオッチしているというのはすごいことだ。同時に番組や個人に注がれる推薦者の愛情こまやかな視線にも心を動かされた」（会報 36号）

比喩的に言えば、芥川賞、直木賞の選考過程や基準に不満と疑問をもって生まれたのが「本屋大賞」でした。本好きの店員たちが店先で選ぶ読者の実感こそ賞への本能的な皮膚感覚ではないか、と。わが「グランプリ」も同じような現場感覚で他の賞とは光源を異にする選考基準を目指して選んでいることは周知のことです。

もちろん、ラジオ部門賞 もありますが、中波、FM、コミュニティラジオと多様な表現領域をもつと同時に、オールド・メディアア視されている現状打開の作業が課題として残っています。ラジオ活性化の一助となればと願っています。

『日韓中テレビ制作者フォーラム』

日韓の間ではじまった制作者交流のフォーラムは中国の途中参加で3カ国メディア間の国際会議に発展しました。「当会は4超一世代

を、地域を、ジャンルを、組織を超えて、さらに国境を超えて、つまり5超で活躍する空云（今野勉）を目指しています。

東アジア先進国の放送事情を勘案した上で3国の放送現場人が持ち回り主催による集会で、さまざまな統一テーマの番組をたたき台に議論を深める毎年秋の集会です。



日韓中制作者フォーラム慶州大会から・市内観光

ここではつい最近の韓国・慶州大会の雰囲気や山田尚の抜粋報告でかいま見てみましょう。

新体制の韓国大会（会報57号）

「今回は存知のとおり、厳しい環境の下での開催であった。今年末（12年）末に向け、韓国では大統領選挙、中国ではトップが代わる。政治が不安定となり、何かと影響が出てくる時期でもある。そこに、中・韓と日本との領土問題、中国からの参加者は予定よりも

減っていた。団長役ともいえる電機芸術家協会の副主席や秘書長といった幹部の姿はなかった。これまでになかったことである。また今回のテーマ「歴史」に関する作品の制作者の姿もなかった。が、参加していた中国の皆さんは、これまでと変わらぬ様子であった。主催の韓国PD連合の李会長は『大過なく終えられた。中国からの参加者が減少したことだけが残念だったが』と言葉を選んで話してくれた。いい緊張感ではじまった今回のフォーラムでは、3カ国の繋がりを大切にしていきたいとの思いが改めて確認されたとともに、シンポジウムを通じて新しい姿への兆しも見えたようだ。

と詠み、ようやく出来つつあった「放送人句会風」が、又乱れ行くかに見えた。第5回からは兼題の一つを季題ではなく、当会らしく「放送」に関連ある題を馬笑氏より出されることになり
身に沁むや夜半のテレビ砂嵐 きよし
芋煮云テレビ取材も食べながら 視郎
(伊藤雅浩)

会員交流

「放送人句会」

定例幹事会や個々の事業委員会の打ち合わせなど、いかにも硬派な団体と見られがちですが、会員相互間の「脱力系の集まり」(今野勉)もあり、「句会」もその一つです。

「放送人句会野次馬記」

新村もとを (会報41号)

松尾羊一(馬笑)氏が「鶴橋の俳句が中々良いので「放送人の会」に句会を立ち上げたい」と西川章(阿舟)氏を牽引し平成19年3月に発足した「放送人句会」がはじまりで、鶴橋康夫氏は
舌絡み背中冷えゆく月ひとつ 康夫

テレビ消しましたテレビつけ秋の午後 冠
(石橋)

犯科帖事件解決西の市 もとを

業界人にはまあ得手な分野つてところ。

第6回は新年ということ

しばし手を裏表して初湯かな 馬笑

初夏居目線怪しき雪之丞 阿舟

松過ぎて淋しき通夜の赤き海老 フミ

(中村美生子)

初夢を笑う女に嘘少し とんこう(堀川)

と、何やら、目出度いような目出度くないような句が:

第7回からは、山県昭彦(ぼん太)氏が「妙な俳号ですが」とバリ島名物の酒(アラック)を携えて参加。

濡れ場まだOK出でず靡なる ぼん太

一姫のやつと生まれて雛を買う 康夫

第8回の放送関連題は『ピーカン』

ピーカンやパラソル林立台場ロケ 勝美

(天山)

ピーカンやレフ撥ねかえす雲の峰 きよし

第9回からは、荻野慶人、小池勝次郎の両氏が加わった。

次は、15回を迎える。蝉鳴く頃に。

(09年41号から)

ほぼ隔月で赤坂の居酒屋「麦屋」で時に「人」にまだ触れざる風や朝桜の名句で有名な「玉藻」主宰の星野高士さんをお招きし、軽妙かつ説得力ある講評で盛り上がりつつあります。放送用語を兼題(例、台詞、ロケ、脇役)に加えるのが特色ですが、句会を肴に談論風発の飲み会でもあります。

会員セミナー

世話人(中沢忠正)の事情で目下中断しておりますが、会員で今なお現役で活躍中(例、えび鴨下信一、重村一、阿氏など)を新橋のクラブジャパンに招き、現状報告を聞く集まりであり、再開が期待されております。

清々会

会員の上村忠さんがTBS調査局時代から培ってきた異業種交流のサロンを会向けに組直し、江戸、明治、さては現代に及ぶ文化散策をスライドで再生する面白い集まり。(毎月最終木曜に開催 赤坂インディアンサマ)

その他、「放送人の会」の具体的かつポテンシャルな意図に着目し、連帯を模索する大学(例えば東大情報学環や北海道大学)などと、桜井均や林健嗣を中心に作業を進めております。さらにローカル局や各種市民団体への講師派遣などの作業もインキュベイト(孵化)させる方向で考えております。

以上が大まかな会の全貌であります。「放送界の名球会」などというヤユにひるまず、ノブレス・オブリージの第2の人生選択の一

つとして当会をターゲットにして戴ければ幸甚であります。よろしく検討ください。以下は追記としてアトランダムに選んだ会報寄稿文の数々です。

(構成・文責 会報編集委員 松尾羊一)

江戸時代のテレビ

中澤忠正

先日、酒席の座敷が俳句の話になり、芭蕉は音楽的、蕪村は絵画的ということで見解が一致。そこまでは常識の域を出ませんが、絵画的とはいえ蕪村の「春風馬埭曲」は、テレビの台本そのものだね、という新説が出て盛り上がりました。NHKに、小さな旅とかいう番組があるじゃないか、あれなんかピッタニコ、と。ゆつたり長い移動撮影なんかやってみたいなあ、というわけです。すると、じやあ一茶はどうなんだ、という展開になり、これは「小咄」ということで一同納得。と、なにか江戸俳句の三巨匠が揃えばテレビの世界は完結だね、と決まって、めでたくお開き。

村木良彦
見世物から出発したテレビは、やがて自身が情報環境をつくり出すようになり、ついには現実と虚構が倒錯する社会を生み出してしまいました。
情報の洪水の中での飢餓感の増大、マスキミ依存と不信の交錯、テレビは放送開始から一直線にこの道を行って来たように思います。この道の内外で、「テレビとは何か?」と問うプロセスが私にとつてのテレビでした。こ

れからも、しなやかでしたたかな異端の存在でありたいと思っています。



断固！「9条」

宇野 昭

写真は昭和22年、日本中の家庭に配られたものです。「テレビを始める」ので、由緒ある寺の住職を継がず、家財ごと放り出されたとき、持ち出しました。初心忘れず。我が家の宝です。

北からの報告「減速する震災報道」

大類 啓

あの大震災から間もなく2年。時の流れとともに震災報道が消えていく。

「最近、震災報道がめっきり少なくなった」「関西に行ったらもう皆無に等しい」(山形新聞2012年12月31日)―被災地隣の地方紙ですら1年を締めくくる大みそかの社説で嘆いているのだから穏やかでない。

新聞の震災報道が減速するというならTV局(特に民放)は店じまい気味である。が、れきの山が見渡す限りの更地と化したらもういわずゆるぎにならない、からニュースにならないのだ。

攻守入れ代わるように、ここに来て震災本が力を発揮し出し、業界筋に言わせれば「目下、出版ラッシュ」。書き手も層が厚く、また一般書のように読者の機嫌をとるような姿勢もまず見られない。

例えば民族学者、赤坂憲雄の被災地ルポ「この国のかたち」。赤坂は今回の震災が起るはるか以前に、地味なことこの上ない「東北学」を山形大学を拠点に立ち上げており、テーマである中央政府の東北支配を視座に説得力のある震災論を展開している。

例えば「その時、ラジオだけが聴こえていた」の稲泉連、戦没学徒、伊勢の竹内浩三を死地のフイリピンまで追ったルポ「ぼくもいくさに征くだけだ」で世に出た若手作家だ。稲泉の怒りは戦争と震災を一直線に結んだ。

古代朝廷の国内植民地政策と東北民衆の抵抗戦争は直木賞作家、高橋克彦(若手在住)の長編小説「火怨、でいかななく描かれており、新年早々NHKでテレビドラマ化された。震災から20年ほど前、山形県長井市在のフオークグループ「影法師」がオリジナル曲「白河以北一山百文」を発表していたのを、初めて知った。

原発みたいな危ないものはすべてこち(東北)に押し付けられて浮かれて暮らすのは都のお方……。

予見性に満ち、文明不信と中央の圧政に対する恨みで埋まった歌だ。

50代、4人のこの男たちの作品に今や「国防軍」が登場しかねない世相である。松

にならない、と悠長に構えているようではTVメディアは立ち位置を失うことになるだろう。ことは震災だけではないのだ。

受賞しました……

石橋 冠

ありがとうございます。

第一回放送人の会グランプリ特別賞をいただきました。私は個人的な賞とは無縁だったので授賞式的时候は嬉しさよりも、怯えが先立ちましたが、会員諸兄の温かい推挙と知り感激して拝受しました。

とりあえずは、常に一緒にいてくれたスタッフたちと喜びを共有したいと思いたち、彼らを招集して酒席をはりました。

「おめでとー！ 乾杯！」

みんなわがごとくのように喜んでくれたが、酒がまわるにつれ異口同音に質問がとんできました。

「ところで、その賞って一体なんですか？」

その夜、密かに誓いました。

放送人の会、その情宣につとめなければならぬ、と。グランプリが決して廃れないよう育成しなければならぬ、頑張ろう、と。

松尾羊一 (放送物書屋)

作る造る創る(真似する)勦る(音果)為る(成遂)。さまざま「つくる」の現場から、惚れたが悪いかと傑作佳作奇作凡作駄作怪作数知れず、高揚と挫折がつきまとい、集まり散じて栄光と悲慘の職人たちが己が職を

「ナントカとテレビは三日やったらやめられぬ」とか。

深川木場は材木商の伴は後年「往時茫々、出入りの職人の仕事を見つめて」と涙が零れたもの」と記した(如是関長谷川萬次郎)。堅気にて遊び人の放送報道50年、放送人の輪の中に孤高の職人を捜す日々であります。つくる……いい言葉だと思います。

橋 康夫

真つ青なる空に竜神おらが春

やり場なき怒りをよそに水温む

羅の女奈落を連れて来る

視聴率わずかに動く暑さかな

▼『杜撰な脚本』という見出しで「昨九十郎(三船敏郎)が寺の和尚にむかって『おい、そのボス、おめえだよ』とわめいた。いく

らなんでも江戸時代で英語を使うか。いい加減な脚本にあきれた(S)云々(朝日新聞72年)と▼数日後、担当プロデューサーの反論が載った。「あれはボスではありません。『坊主』と言ったのです。三船さんの台詞まわしが聞き取りにくいかもしれませんが、脚本家の名譽のために筆をとりました。そうなる」と『杜撰な脚本』というテーマ自体が崩壊する。

S氏の反論はなかった▼『放送人グランプリ』の真意は役者のノリ、「組」(スタッフ)の意欲など、スタジオの雰囲気を知するOBの目から真贋を測るところにある。現場を知る者たちの相互批評いでよ、と言いたい。(M)

恒例消夏座談会

2013前期の放送・ジャーナリズム

A まず上半期の話題からだが、参院選はもう遠くなった感じだ。

B 選挙特番はタレントを集めてやるスタイルはもうダメだ。今回テレ東の池上彰はこの前と同じで新味がなかった。

C 前回出たひとにかなり逃げられた。住民票がアメリカのままだと問題になった東京選出の丸川珠代にも逃げられた。

D でも民放の中では一番面白かった。スポーツ中継と重なって開票速報をやらなかった局もあった。

A 開票直後の8時の段階で9割以上正確な予想ができ、ほとんど当確が出る。開票速報の中でも言っていたが開票速報の意味があまりない。

B 開票前に大勢が分かっている、そんな選挙だったんだ。生でみるドキドキ感はない。

C これだけ世の中が大変な問題をかかえながら投票率は極めて低い。これはどういふことだろう。

D 選挙期間に入ると争点隠しで、政策論がテレビからなくなり政局報道だけになる。選挙期間中も政策論争をテレビはやっていいはずだ。

A 新聞の「首相の1日」を読むと投票日に安倍首相はテレビ局のトップと食事会をやっ

ている。テレビ局の公正中立は大丈夫なのだろうか。それ以前に政府側から原発やTPPを隠し、アベノミクスを讃えるメディアへの働きかけは大いにあったようだ。

B メディアは争点を隠されたらそれを表に出すのが使命だろう。開票速報だけでなく、こんな政策が国民に支持されたという報道がない。

C 開票結果について報じられたのは「ねじれ解消」だ。ねじれは悪いこと、異常なことではなく、むしろ救いだと思っ

D 新聞は憲法について各紙の意見が明らかに違っているが、放送は世論調査の結果を報じるだけで、特集番組は選挙が終わってからだ。

A インターネットが初めて選挙で解禁になった。全体として大きな影響はなかったが、東京地区ではあった。山本太郎が当選し、彼と組んでいた緑の党の三宅洋平は落選したが比例区の個人名の記載では17万票を越え、党でトップだった。はじめてだからこんなもので、これから若い層に影響が出て来そうに思っ

B 池上彰の番組をみるとインターネットを最も利用しているのは自民党だ。

C 自民党の選挙戦略は調査が徹底して

間違いない。調査に協力しているのは多分電通だが、他の党は足元にも及ばない体制だ。要読みは公明党の組織内の要読みに負けない正確さだ。お金がなきゃできない。

D 麻生がナチスの失言をしたが、内閣調査室あたりでのマル秘プロジェクトの内容が不用意に漏れたものらしい。

A 日常的にあんな会話をしているのだろう。

B いろんな番組に30代後半の准教授などいろんなひとが出てきたが、プラグマティックな現状肯定論で、だいたい右寄りだ。

C 夜12時の前のWEBニュースに出てくるゲストはネットを通じてみな右の方へ入ってくる。

A 話が変わるが、10周年を迎えたBPOの話をしよう。BPOの委員長や部門の責任者はことあるごとに「各局はBPOに対してビビることなく自由な番組作りをして欲しい。われわれは自由な番組作りを奨励しているのだ」と言っている。BPOは検閲機関ではなくて辛口の応援団だと自認している。それを局側、特にバラエティーの制作現場では目の上のタンコブ視しているのではないか。

B 現場はBPOの指摘に対して「また言ってきたか」と軽視してきた。BPOはどうしたらBPOの意見が現場に伝わるかと工夫している。しかし現場は急に切り替わらない。最近BPOの指摘は増えている。指摘が増えるほど現場は「また言ってきた」という反応になる。BPOは深刻に悩んでいるが、改善の効果はあがっていない。しかしBPOを否定する意見はない。第3者を入れた新聞にも

ない機関だから大事にしなければいけない。

C 今、地域での懇談会をしきりにやっていると評判がいい。しかし、BPOで話題になった番組は局内でバッシングされ、担当は番組から外される。東海テレビが番組の受賞を辞退するといったことも起こった。

D テレビには「知らせる」性質と悪場所性がある。江戸時代の両国では「それ突けやれ突け」などいかにわいせつ場所の見世物があり、お上は時々手鎖などの処分をした。BPOが「あるある大事典」を問題ありと指摘したのは、「知らせる」機能について違法性があり、必要な指摘だったのだが、演芸一般のすれすれの部分については悪場所性なのだから、BPOの言うことはすれ違ふ。バラエティー番組は外注が多く、局にしてみればテナントを沢山抱えてまとめては到底仕切れない。お上は仕切れと思っているだろうが、一方で「何やってもいいんだ」とあやしげなことをやるのがいくらかもある。これと「いいか悪いか」のまともに論議が噛みあはずがない。

C ある事実をいい加減な実験でごまかして事実だと言うような作り方は絶対やるべきでないが、性表現や「はだしのゲン」の残酷性問題などについてBPOの意見をせひききた

い。

D バラエティーにはニュースとは違う尺度があるべきだ、と言っている。わかっている言っているのだが、それが伝わらない困惑がBPOにはある。「みなさんちゃんとやっているのだからつまらないことで足をすくわれるな」というのがBPOの態度だ。

A 「足をすくわれる」とか「揚げ足をとら

れる」のは、事実無根のねつ造ややらせだらう。

B 今回の安倍は皇国史観の完全な右翼だ。

靖国神社は筑波藤原宮司のときまではA級戦犯の合祀には慎重だったが、松平永芳宮司のとき合祀にふみきった。その後には平泉澄学派の皇国史観がある。安倍はその学派だ。

自民党の中にそんなグループがあつて力をつけている。国内にはほとんどひろがる。メディアは戦後68年、真剣にこの問題に取り組んではいない。戦後処理は何一つきちんと決着していない。自民党内にリベラル派、ナシヨナリストが入れ混じっているなどという次元ではなく、その背後をみて民衆が参加して状況まで踏み込んで取り組まなければならぬ。靖国、教育などの問題を考えると、違つ国になつてしまつたような状態だ。

A テレビのこれからだが：

B 電気屋でしかみたことがないが、ディスプレイが大きくなければ意味がない。大きなディスプレイが置ける環境、生活状態があるかどうかだ。少なくとも50インチ以上だ。

C しばらくは、サッカーのビッグゲームを大騒ぎで見るようなパブリックビューイングで使われる。今度のブラジルでのサッカーはCSの4K放送だ。そんな意味では急速な普及はあり得ない。ただ4Kは映画の制作に結びついていて、編集機器がそろつている。8Kは実験放送をやるくらいだろう。

D ハイビジョンが始まつたときは値段が高く撮影機材は大きくなかなか普及しないだらうと思つたがそうではなかった。総務省と

メーカーはハイビジョンでは世界標準の獲得で負けたから、今回は主導権を握りたいと狙つている。総務省とメーカーががんばればひよつとすると急速に普及するのではないだろうか。

A 大画面になれるとそれ以上のものが欲しくなるが、どうだろう。

B パブリックビューイングとお茶の間テレビの間のコミュニケーションという形が普及するかもしれない。スポーツのパブリックビューイングは今も数10人規模のものが多く。

C デジタル技術の進歩は見当がつかない。ハイビジョンの画質の撮影がスマホの大きさのものでできる。ケーブルテレビのスタジオに行くとき小さな玩具みたいなカメラがハイビジョンのカメラだ。

A デジタル機器の進化は早く、8Kの収録機器も小型のものが既にできている。4Kが急速に普及する時期は早いかもしれない。これからのこの世界はインタラクティブな要素をどれだけ取り込めるかが勝負だ。4K、8Kでは個人が発信するのは難しからう。収録すれば大量の情報量だから分割して使えば凄いいメリットがある。だけど今のテレビと急速に置き換わることはないだろう。

B いや、7年後の「東京オリンピック2」は受像機買い替え期にピツタリ重なる。途方もないニーズが発生する。

D ソフト面(テレビ編成)もそれを睨んで今から対処すべきだ。

C 3Dはもうダメだ。アメリカでは映画館で3Dの生放送を見せ、それが起爆剤となつて普及すると思われたが1、2年だつた。

D やはり眼鏡が要るのはダメなんだ。
A 万博などでアイマックスなどいろんなものが出たが結局他に繋がらなかつた。

B 最近ビデオリサーチが録画率の調査をやつている。これまで局、広告主との関係の中で無視してきたがどうとう無視できなくなつた。録画視聴が3割を越えたという。

C 今のテレビには連続ドラマを3ヶ月くらい全部録画できるものがある。これまで連続ドラマをDVDにして販売するには1年くらい待つてから売り出したのだが、そんな録画ができると待つて販売なんてできなくなるだらう。

D TBS月曜のパナソニック枠が1社提供をやめる。いまや1社提供のスポンサーが番組イメージと結びつくことがなくなつた。

【夏の映像ジャーナリズム】

A 昨年は終戦記念のドラマが少なかつたが、今年は何本かある。

B 「誓アバート」(NHK総合・8月24日放送)は、基町アバートという戦後再開発で建てられたアパートに住む残留孤児とその孫の物語り。こゝはいま住民の40%が中国人だ。今年の戦争関連番組のテーマ「難民」が登場する。フクシマのひとたちも難民だと思つたが、

基町には原爆で身寄りをなくした人、中国残留孤児、引揚者、さまざまな難民が住んでいる。中国人のほかにも重国籍の人も多い。この基町に小学校があり、その校長は「みなさんはハーフではなくてダブルだ。二つの国の血を持つていることを利用して半分ずつでなく2倍それぞれの国を字びなさい」と言つた。

おじいちゃんが残留孤児だつたと知らずに預けられた少年と近所の同級生で中国人の少女の交流を軸に、広島原爆、日中戦争を知つて行く物語だ。これまで原爆の番組は被害者と地域、被害者と家族、被害者と国家といった問題を描いてきた。今回はそれを越え、ここに集まつた難民たちがそれぞれに戦争をどう理解して行くかを描いている。広島原爆のドラマとしては異色な取り組みだ。

C 今年はドキュメンタリーの中にドラマタイズされたものが多かつた。戦争を知らない若者たちに語りかけるにはこれが一番いいという結論なのだろう。成功した例と失敗した例とあるが、その中で「緒方貞子ものがたり」(Nスベ、8月17日放送)がよかった。国際的にあれだけ活躍し、自分で重大な決断をし、評価されているとはいえない。ノーベル平和賞を受賞している。

D 緒方貞子さんの人生を辿るドラマは斎藤由貴がやり、台詞は英語でハリウッドで撮影された。緒方さんは高貴な育ちでおっとり育つたのだが、ある日思い立つて国連へ行き、難民高等弁務官になる。斎藤由貴はそこを上手く演じている。

A 市川房枝を演じるのが佐々木すみ江だがそつくりで驚いた。

B TBS報道ドラマ「生きろ、戦場が残した伝言」(8月7日放送)もそうだ。米軍攻撃の直前に赴任した沖縄県知事嶋田敏が主人公で「いのちこそ大事だ」と住民の命を守ろうとする。

C 米軍が撮りまくつた記録フィルムの苛烈さと洞窟内のドラマ描写にみる恐怖の空気を感

がうまく繋がっていないのが惜しい。

D 「零戦」搭乗員たちが見つけた太平洋戦争 (前後編 Nスベ、8月3日、10日放送)

には不満が残った。今上映されているジブリの映画「風立ちぬ」の制作者もそうだが、戦前世代には零戦には戦争を離れて飛行機への憧れがある。ひこで作ったA級プレーンや木を削って作ったソリッドモデルで遊び、集鐘、3式艦上戦闘機、紫電改など全部見えている世代だ。零戦は最初は凄いの飛行機だと聞いたが終戦直前には「零戦は攻撃には強いが撃たれるとばつと火をふいて墜落する」と聞き、偶像に裏切られた思いを持っている。

A 堀越二郎は、海軍の「経費を削れ、重量を削れ、攻撃能力を高めろ」という苛酷な要求をのんで強度、耐久性を犠牲にしたというあたりはよくわかった。しかし、1時間半番組を2回、零戦の栄光と悲劇を全部見せようと欲張りすぎたのか、搭乗員の証言は編集が整理されていなくて繰り返が多い。

B 昨年の「戦艦大和」と作り方が同じだ。A ケーブルテレビで30分の零戦番組をみたことがある。山陰の高専を卒業して三菱に入り、堀越さんと零戦を作った男の話だ。この技師はそれから中国へ行き、出撃してやられて帰ってきた零戦を修復した。それから零戦は特攻機になり、技師は「俺たちは棺桶を作った」と言う。彼と特攻で死んだ兵士はほぼ同世代だ。

B 今年アーカイブを使つての番組がひろがっている。テレビ朝日のザ・スクープ「原爆と原発」日本の原子力と米国の影」(8月11日放送) もそうで、鳥越俊太郎がギャラクシ

賞の場でPRしていた。この番組と「終わらなき被爆との戦い」被爆者と医師の68年」(Nスベ、8月6日放送) はセットで見るべきだ。番組の中でアメリカの当時の責任者は「原爆に残留放射能はない」と言い切っている。この取材に行った記者に8月6日の番組を是非みてほしい。被爆直後でなく10年後、30年後、60年後に放射能の影響がある。いかに染色体が傷つけられるか追跡している医師が広島にも長崎にもいる。その持続力に敬服したが、原爆の恐ろしさがこの番組でよくわかった。

C 染色体の映像をみせ、実にわかり易くできていた。初期の段階は顕微鏡でみるのでプロでないといわなかったのが、最近の光学機器でしろうと目にわかる。この画面作りは凄いな。

A NHKBSが深夜に放送した「オリバー・ストーンが語るもうひとつのアメリカ史」(8月6日、21日、10日放送) は日本の制作ではないがアメリカ側からみた核戦略の歴史を詳細に語り興味深い。番外編としての秀作だ。

B 原爆が日本の降伏を早めたという説があるが、アメリカ側にはそうでない真意があったということからスタートして組み立てなおして欲しい。

D 「終わりなき被爆との戦い」はNHK広島島の制作だが、この局の制作の持続力も凄い。毎年やってもやっても新しいテーマが出てくる。

A ABCの情報ははじめとして原爆のあらゆる情報がアメリカに持って行かれたとすば抜いたのもそうだし、黒い雨の見直しも

そうだ。あの熱意には敬服する。

B Eテレの「視点・論点」でアサー・ピナードがピカドンというコトバがもつ意味と上空からの映像のちがいをつき、広島島のウラム爆弾、長崎のプルトウラム爆弾のちがいを、原爆と原爆の立ち位置を鋭くつぐ。

C 原爆から離れるが、アーカイブ利用の番組では「忘れられた引揚者」終戦直後 北朝鮮の日本人」(Nスベ、8月12日放送) はソビエトのアーカイブからのものだ。ソビエトのアーカイブの映像はいろんな形で流出している。それと帰ってくる人の苦難とかみあわせて非常に見せた。

A 寒河江正さんの「希望の翼」に出てくる逃避行の場面を思い出した。

B アーカイブはほとんどアメリカの公文書館が、いまのような形だが、「自衛隊と憲法日米の攻防」(Nスベ、8月11日放送) は珍しく日本の国立公文書館で開示された資料で作られ、面白かった。

C 後藤田が「あれを許したら蟻の一穴で、はどめがなくなる」と言っているが、関連したものはBSTBS「週刊報道」(8月18日) で村山元総理が自分の談話全文を時間をかけて読んだ。キャスターはその前後のいきさつを懇切丁寧に聞き、村山氏に「この談話をもとにアジア諸国との関係をきちんと作って行く勢力を作ることに余生をかけた」と言わせている。このなかで後藤田の「蟻の一穴」を引用している。

D 「従軍作家たちの戦争」陸軍のメデア戦略 火野葦平の周辺」(Nスベ、8月14日放送) はいずれ作られるべき番組だった。

A 作家たちの中で火野葦平だけが特殊で彼だけが文学者ではなく兵士として従軍している。日本の知識人のある典型で、昭和3年マルクス青年で警察に引つ張られ、「糞尿譚」で芥川賞。「表と兵隊」のあと「土と兵隊」が田坂具隆監督で映画になり「徐州徐州と人馬は進む」の歌が大ヒットした。

B 火野葦平昭和35年に他界するが、最初は脳梗塞と発表され、のち遺書が出てきて自殺とされている。従軍作家たちは戦後戦争責任について決着をつけた人はいないが、火野は戦争責任をとられて公職追放され、悩み続けた。

C あのアフガニスタンの医師の中村哲が甥だといふのはびっくりした。番組は意外なことを教えてくれる。ディテールは非常に面白かった。

D 当時の新聞は「花と兵隊」は朝日新聞「海と兵隊」は毎日新聞と火野を奪い合ったのだが、新聞がそのことを戦後に戦争責任として考えたことはないだろう。ジャーナリズムも文壇も全部軍に牛耳られていた。

A フィリピンやバタビヤなど楽しいところへちよつと行って帰ってきた従軍作家と火野は違ふ。戦意高揚の作品は書いたかもしれないが、戦場で得たもので彼は生涯苦しんだ。作家個々の問題と軍のやることはわけて考える必要があるが番組は後半混乱している。

B 文士の従軍記は「昭和文学史」(川西政明) が詳しい。特に火野の自殺にいたる経緯と石川達三筆禍事件を中心に文学報国会に触れている。

C 林美香子の時局講演会のフィルムなど、当

時の文学者が時代にコミットして行く映像は珍しい。

A NHKBS1の「長い旅路」日本兵に合ったアメリカ人(前後編) 8月15日、16日放送)は証言者が齢をとって穏やかな話をしていくがまとめてみると、日本側とアメリカ側の両方で大変なことが起こっていたことがわかる。その補償はアメリカではちよつとあるが日本ではまるでない。あの人たちは戦後自力で自分たちの生活を築いたわけだ。

B アメリカに行った日本の移民はアメリカの学校へ行かず高校、大学になると帰国して日本の学校へ入学している。二重国籍なのだが、日本国としては認めていないし、当然徴兵もされる。「艦艇大和ノ最期」に出でくる中谷少尉がそうだ。

C プロジェクト112「知られざる米軍化学兵器開発」(NHKBS1、8月13日放送)には驚いた。731部隊のデータをアメリカは全部持って行ったのだが、アメリカ兵器開発は恐ろしい。ベトナム戦争の枯葉剤、沖縄にあれほどのサリンがあったこと、底が知れない。枯葉剤は琉球朝日放送がやったが、サリンや麻痺性(ただれること)の毒ガスをあれほど持っていたとは。

D 今回のシリアの生物兵器は源は731部隊にもあり、アメリカはじめ各国で開発され生物兵器見本市もあり、そこで入手したものが使われた。

A 国は勝手にいろんな形で従軍させても補償はしない。国は国民を守る組織ではないのだと思ひ知らされる。その指摘が今年是非常

に多い。「戦後史証言」プロジェクト 日本人は何をしてきたか①沖繩②水俣③鶴岡④猪野(NHK、7月6日〜27日放送)がそうだ。

B 「忘れられた引揚者」も国家のエゴで帰国を妨げられ、中国の内戦に隊長の命令だと動員され、数年帰れなかった人たちが、全く補償されていない。

C 加賀美さんがナレーションをやった「届かぬ訴え」空襲被害者たちの苦難の戦後(E TV特集、8月17日放送)もそつで、軍人が補償されているのに一般市民の被害者が何故補償されないのかと思う。

D 68年という節目でもなんでもない年にこれだけ多くの番組がある。東日本大震災の番組をやっていた力がこうした番組に戻ってきたのかもしれないが、どうも日本はおかしいぞという危機感もあるだろう。

A 戦争も原発も世代を超える問題だ。津波は風化するおそれがあるが放射能は風化しない。

B フクシマの汚染水はいまだに漏れ続けコントロールできない。住民はまだ帰れない。

C 東京大空襲の体験者として言えば、国と東電に賠償を求めている東北被災者が重なる。総力戦下の東京はまさに戦場だった。大空襲の被害者で戦後に跡地に戻ったのは少ない。当時の東京下町は東北に共通しているものがある。

【ドラマ】

A 「半沢直樹」は制作者が作家に意図を伝える

て書かせているのだろう。もう一つの池井戸潤原作の「七つの金鱈」(NHK、土曜日7月)が対照的なのだが、楷書体で作っていて、宮村優子がきちんと脚本を書き、台本通りテンプもあるドラマに仕上がっている。あの物語を進めるには悪役は悪役、善玉は善玉と決めないと進まない。そうすると人間性の幅面白さ、遊びをネグって行く。半沢は連ドラなのでみんなが工夫して人物像を作り上げて行く。そこをうまく生かしてやっていると思う。

B あそこに登場する人物は極端な異常な人物ではない。よくある、普通のサラリーマンがあるとき悪たくみをし、不正を行う。

C 職場の秩序を壊すようなドラマは「ショムニ」「リーガルハイ」などこれまでもある。ドラマの骨法を崩してバラエティー風の作りにする。しかしあのとときのうけ方と半沢直樹のうけ方は違う。一種の社会現象になっている。

D 池井戸潤が書いてきたのはバブル入社世代のサラリーマンの心情だ。彼らは海図なき日本経済のなかで悪戦苦闘して全く報われない。ちよつと経営がおかしくなると出向リストラ、待機部屋だ。恨みつらみは重なっている。「七つの金鱈」は生産会社のリコール隠しをあげく話だが、「半沢」には悪人がいて、河竹黙阿弥の勧善懲悪ドラマになっている。水戸黄門がうけたのは「おぬしもワルよ」と悪の連鎖を描いたことがある。

A 世の中につぶが自分の体験も含めてあふれている。それを晴らすのは善人にはできない。

B 完全に時代劇の骨法だ。財務庁の役人に愛之助を起用しておねえ言葉を使わせるなど、うまい。

C 「あまちゃん」(NHK、テレビ小説はバラエティーだと思ひが「半沢」は劇団だ。演出は福澤克雄、脚本は八津弘幸。

D ドラマには人間の業、ものあわれなどを期待してしまうので、「半沢」や「あまちゃん」をドラマのメインだと思ひたくはない。

C 「半沢」は「倍返しだ」と叫んだりするが、人情の機微、かけひきなどのツボははずしていない。視聴者の日常の人情とかけはなれてはいない。その面白さだ。

D 大衆に人気なのは「雪乃乃変化」にしても「藤屋王」にしても善玉、悪玉があつて、現代の白浪ものも勧善懲悪だ。いまま変わらぬ。

B 半沢の奥さん(上戸彩)がはじめはちゃらちゃらした変な存在にみえたが、だんだん面白い存在になった。

C 「空飛ぶ広報室」(TBS、4月)自衛隊嫌いはさておいてよくできたドラマだ。いまの空自の広報室がこうだとは思ひないが、メディアとの関係をテフォルメした描き方でうまく描いた。

D これまでテレビは自衛隊とのつきあいはとまどいがあつて避けていたと思ひが、この番組以降女の自衛官とか自衛隊の映像をテレビでみることが増えた。

A 基本的には風刺ドラマだろう。自衛隊もドラマも風刺している。

B 原作は有川浩(ありかわひろ)。よく間違われるが女流作家。Pは磯山晶

C 自衛隊のホームページでは「やった、やった」と大はしゃぎだ。
D あそこで描かれる自衛隊は健全な精神の健全な企業だ。新憲法感覚の自衛隊なのだ。番組制作にあたって自衛隊は全面的に協力している。

A このところTBSはすれすれを狙ってヒットを出したがこの一作だけだ。フジは「SUMMER NUDE」(フジ、7月)ぐらいただ、これだつて「ビーチボーイズ」(97年)や「ウォーターボーイズ」(03年)の元気が今一つたりない。月9の枠が元気にならないとドラマ全体がつまらなくみえる。

C 単発ドラマの「未解決事件 FILE03 尼崎殺人死体遺棄事件」(Nスベ、6月9日放送)は今期注目すべきドラマのひとつだろう。

D 否定的な意味で問題ではある。グリコ・森永、オウムに次ぐ第3弾としてやったものだが、何を誰に伝えたいのかわからない。
A いやな気分が残る作品だ。なぜあれほどのマインドコントロールができるのかわからない。

B 金曜ブレスページの「鬼女」(フジ、6月28日放送)は藤山直美が熱演。

C 山田太一「スベシヤル」よその歌わたしの歌」(フジ、7月19日放送)は鳳蘭はよかったが、もっと芝居をさせればよかった。
C テレビとしては抽象的ではないか。日常的な共感を感じない。

D 世の中の寓意性を重んじるところがあって、それで観念的になるのだろうか。

A あれが渡瀬恒彦でなくて、望んでも無理だが宇野重吉や笠智衆のような役者がやった

ら違ったかもしれない。

B かつての「異人たちの夏」が同じ感じで、映画にも舞台にもなったが小説限りのものだろうと思つた記憶がある。

C 「テレビ60年」では民放、NHKの懐かしい番組をつまみ食いしていたが、あの中の「男たちの旅」で山田太一さんは鶴田浩二にこだわった。自らも体験者だった鶴田浩二は異様なくらい特攻隊の話をした。そうして作られたドラマでは「死ぬ意味も分からずに死ぬのか」といった台詞が作家が惚れ込んだ役者がやることで生き生きと聞こえる。

D 「激流」(NHKドラマ10 6月)は修学旅行中行方不明になった少女を同級生が追うミステリー。田中麗奈、桐谷健太、国中涼子など。

C 途中面白くなって引つ張られ最後までみたが結末に拍子抜けした。

D 「第5楽章」(ドラマ10 4月)はライバルのバイオリニストが20年後に出会って…という物語。羽田美智子と板谷由夏がうまくかみあっていた。

A 「島の先生」(NHK土曜ドラマ、5月)は仲間由紀恵と石坂浩一。ほんわかして、悪くなかった。登校拒否児の問題をうまく扱っていた。

B やはりかかったらしい。最近ではテーマより人間像への共感というか「ほら、あんなやっつけるよ」とのつかって行ける人物を描いた方がうける。

C NHKBSがオリジナルドラマを作り始めた。滝沢秀明主演の「真夜中のパン屋さん」(3月)宮部みゆき原作の「小暮真直」(4

月)など。これらはドラマ10と同様、広く企画を募って作っていて、新しいドラマの発想、制作者を見出ししている。

D BSのドラマの中には地域ドラマの枠がある。「父の花、咲く春、長良川暫間物語」(NHK岐阜、4月3日放送)、「菜の花ライオンに乗り換えて」(NHK千葉、4月24日放送)などがそうだ。ディレクター、プロデューサーがほとんどいないところでドラマを作るのは大変だが、地域の局が存在感をアツピールするには有効だ。2、3年前から沢山作られている。

B 「夫婦善哉」(NHK、土曜ドラマ、8月)が思ったよりいい。映画の森繁、淡島イメージが強すぎるが、今回の尾野真千子、森山未來もなかなかだ。映画は森繁のアドリブドラマだが、今回は織田作之助の原作に忠実だ。

C 織田作の小説の未発表の続編が見つかった、二人は別府で暮らしている。

D 映画の二人はかなり高齢だが、そもそものなれそめは大阪の若いほんぼんと芸者で、森山未來でいい。

A 丁寧に作られていて、セットがいい。夜景が綺麗だし、大正モダニズムというかジャズが流れる。ナミのカレーライスの卵とじをいつまでもかきまわす食べ方とか、いろいろみせてくれる。

B 「WOMAN」(日テレ、水曜、7月)は満嶋ひかり主演シングルマザーもの。あの細身で苦労しながら二人の子どもを育てているので、ついついみてしまった。音楽がドボルザークの新世界の第2楽章が流れる。悲劇

性をおおって単純にひきつけられる。

C いまテレビドラマの世界で一番の手練れがやっている。脚本坂元裕二、Pが次屋尚、演出が水田伸生、「MOTHER」のスタッフだ。「八重の桜」の女の子が初回の子役で出ていた。そんな目のつけどころもうまい。

D いや、何と言つても望海役の鈴木梨央と弟の陸役の高橋来、子役やってます」なんて、こまっしやくれた演技じゃない。ドラマの中に現実に存在している「存在」を気づかせるのだ。

A 是枝裕和が昨年関西テレビでやった「コイイング・マイ・ホーム」のような自然さと好一対だ。

B 素材も番組のトーンも違うなあ…

C 母親の田中裕子と電車のなかで痴漢にまぢがえられた小栗旬、そして小林薫。そこらのつながらないところは視聴者に対する「つながらないところをあなたたちはどうつなげてみるのか」との問いかけにみえる。生活保護とか、突然病気がみつかるといったいろんな不条理がやたらにでてくる。そんな面白さでもある。

D 手を変え品をかえ出てくる医療ドラマが依然善戦している。「DOCTORS」(テレビ朝、7月)、「救命病棟24時」(第5シリーズ) (フジ、7月)がそうだ。テレビ朝日は「ドクターX」をまたやりそうだ。

A 朝ドラのことだが、宮藤官九郎の脚本でスターにあこがれる少女の物語をやりたいという企画はふつう通るものなんか?

B 「純と愛」が通つたのだから通るだろう。
C 「あまちゃん」は東京の芸能界の話になる

としんどいが、視聴率は落ちていない。能年
玲奈は魅力あるが、毎日みなくてもいい。

D AKB 48を裏返して人気を頂いているよ
うで、太巻はそれらしく秋元に似ている。

A もともとテレビ小説は芸能界のちやらち
やらしたものでなく、地域社会に根差して、
あるいは上京して孤軍奮闘する女性を描いた
のだが、そうではなくなった。

B 「純と愛」は何でもござれだった。

D 彼は15分というテレビ小説の時間の
中で1回泣かせ、1回笑わせ、1回感動させる、
この3つを1回完結でやっている。これはコ
ントなのだ。聞くと毎日1本づつ書くそう
だ。

A 前のシーンがうまく使ってあって、脚本
には多くは書いていない。頭の中はドキュメ
ンタリーの構成をするような断片が散
らばってそれをコラージュしている。

B 妙な手書きのアニメーションがでてきた
り、やりたい放題のバラエティーだ。

C それまで「サラリーマンNEO」をやっ
ていた吉田照幸をわざわざ異動させたのだか
ら、間違いなくそうだ。

D 設定は「マンハッタン・ラブ・ストーリ
ー」とそっくりだ。「木更津キャッツアイ」も
思い出す。民放では見慣れているが、NHK
でははじめてで新鮮だ。

A 「八重の桜」はどうなるの？これからも
う面白くはならないの？

B 「平清盛」のときもそうだったが正史に
記載されていない視点の違う歴史観で描こう
とすると物凄いエネルギーが要るし、苦勞が
多い。

C 会津落城の時はCG画面を駆使して大砲

をぶっ放し昔風の戦国ドラマだったが、時代
が変わり男性との出逢いがある明治の生活で
はトーンががらりと変わる。脚本の山本むつ
みはいろんな要求にこたえきれなくなつて、
つなぎに別のひとが書いた。最初の狙いから
少し分裂してきたかもしれない。

D これから新島襄の奥さんになって同志社
物語になつてどこまで話は続くのかな。

A 会津戦争はどのくらい続いたの？

B 自河口の戦いから降伏まで約5カ月。

C これをみて薩長に対する会津の恨みがわ
かると、中国、韓国、日本に対する恨みが思
わざるをえない。やられた側の恨みは深い。

D 中村獅童が演ずる佐川官兵衛は西南戦争
で熊本鎮台へ隊長として行き薩摩に対する仇
をする。

A 白虎隊と女たちは死んだが、男たちはか
なり生き延びている。西郷頼母は生き延び、
その甥は柔道をやって姿三四郎のモデルにな
った。山川家は帝大総長を出し、大変なもの
だ。末娘の捨松は官費留學した後大山巖と恋
愛結婚、津田梅子の津田塾を応援し明治の女
子教育のリーダーだった。

B やられてから一念発起して頑張るのは戦
後社会に似ていて、ドラマはそれを意識して
作っているようだ。

C 会津にはもう一人柴五郎という男がいて
「坂の上の雲」の秋山好古と同期。その兄の
柴四朗は東海散士の筆名で「佳人之奇遇」を
書いた。その兄の長男も斗南へ行っているの
だがこの3兄弟が出てこないのは解せない。

D これまで八重が中心の物語りではなく、
中心は寛馬だ。これから八重の物語りになる

はずだがしんどいだらう。

【ドキュメンタリー】

B 先ほど出たが「オリバーストーン」は終
戦特集ではないドキュメンタリーだ。彼はピ
ーター・カズニックと一緒に広島を訪れ、B
Sの番組になつている。

C 山形放送の「離島ナース」(NNNドキュ
メント、4月14日放送)がいい。離島は飛鳥
ここの医者がいなくなり二人残ったナースが
頑張る。

D 山形放送はこの後作り直して40数分の
番組にした。こちらが数等しい。ナースの頑
張りだけでなくふくらみが出た。

A 消えた毒ガスの島として名高い大久野島
のドキュメンタリーが6月に出てきた。数年
前にも作られた。

B 「毒と命」カネミ油症「母と子の記録」(N
HK、5月25日放送)も力作。原爆 水俣に
つながる問題だが、カネミ油症も昨年援助法
ができたが子ども世代の発症は救済されない。
現在採血された血液からダイオキシンの検出
されないこと認定されない。

C 「にぎやかな過疎」(テレビ金沢)は新し
い農業を始めようと若者3人が入って来た農
村をこれから長期取材するらしい。その入り
口のところをやった。中崎清栄さんの作品。
まだ味は薄いが面白くなりそう。

D 「安五郎さんの集落」(NHK)は3・11
の翌日長野県で起こった長野北部地震で被害
を受け見捨てられた村だ。「にぎやかな過疎」
と明暗の対照だ。石井彰さんの構成。

A 「安五郎」は感じがいいのだがへそが
ない。

B 「二人の結婚」(山口放送、6月
16日放送)は長期に取材をした番組。前回お
じいさんがなくなつて、おばあさんがぼけて
山に向かつて「おじいさん」と叫ぶ哀切な
声が残っている。今回は臨終の場面と
娘夫婦が後を継ぐシーンがいい。

C この10数年、過疎地、山岳部の住む老夫
婦の愛情を描いたものは多く、日本人の心情
をくすぐる。年を取ると仲良くなるんだね。
年とってから綺麗になるじい、ばあとい
うのがいるんだ。

D 「安五郎」は雪が足りない。あのじいさ
んがモグラたたきをやるがあれを延々雪の中
でやるのを見せて欲しかった。そうすればじ
いさんの気負いと悲しみがみえただろう。あ
れはニュースの素材のままだ。

B 「中国激動 怒れる民をどう収めるか」
密着紛争仲調人(NTV) 6月16日放
送)をみてつくづく思ったが、あの広い中国
を治めるというのは大変なことだ。

C 中央政府では手に負えなくなつて民間に
ゆだねているのだが、これが民主化に結び付
くと共産党支配体制は崩れる。

D 中国でもネットは携帯電話を規制出来な
い。あの国を治めるのはえらいことだ。これ
から、アメリカ、ロシアがどう中国とつきあ
つて行くのか、手を焼くのか、短い余生の間
で御手並み拝見。(笑)

A いま中国最大の問題は地方の反乱だが、
この番組では土地問題での騒動だ。中国の土
地はタテマエは全部国有で民間には長期の期

限付きで貸し出すがその利権で膨大なお金が共産党幹部の懐に入っている。だからこの騒動に官は立ち入れないのだ。

B 「ニッポンの性教育 セックスをどう教えるのか」(中京テレビ、5月12日放送) はお母さんたちが「いまや子どもたちにはリアルな性教育をしなくてはならない」と具体的な模型を作って性教育をする記録。子どもは小学生。学校側は及び腰だがお母さんたちが素朴に人形を作ったり紙芝居をしたりしてちゃんと話す。

C お母さんたちの地域活動を描いているのだが、それだけ切実な問題が起こっている。

B この番組は中部北陸地区教養番組部門の1位に入賞した。

D 「ハ」とはばと365日」(NHK、4月15日放送) も過疎地のじいさんとはあさんの物語りだ。ベコというのは短角牛の赤牛で夏は山に放牧し、冬近くなると呼び戻す。じいさんは「おれのばあ」と言うが仲のいい夫婦だ。

これが地方発ドキュメンタリーの1本目。
2本目は「おもうわよう」(4月22日放送)で、東京の青島の話。島には病院がなく、年齢をとって病気をすると別の島の病院へ行き、死んで遺骨で帰ってくる。子どもは中学を卒業すると島をでて行く。「おもうわよう」は「さようなら」の意味。船が出て別れるときの「あなたを思ってるよ」が「さようなら」になった。

A 報道特集「憲法改正シリーズ1〜2 表現の自由(第21条をめぐって)」(TBS、5月11日、18日放送) は金平茂紀の司会。フランス

のいい解説だ。

B 憲法については池上彰の特番もあったがこちらは戦争条項と天皇制が重点。

C 草案に「天皇を君主とする」とあるのを毎日新聞がすっぱ抜いたことにマッカーサーが怒り、スタッフに命じて憲法草案を2週間書き直させたという解説を興味深く聞いた。

D あの中で選挙のとき行った映像を使い、自民党総裁室の写真のみせた。岸信介の奥さんが孫を抱いている写真でその孫が安倍だ。「命をかけて憲法を変えたかった岸さんの孫です」とアクセントをつけて解説していた。安倍総理は先々代からの筋金入りの憲法改正論者だとよくわかった。

A 「世界遺産富士山、水をめぐる神秘」(Nスベ、6月30日放送) は富士の伏流水がいか豊かであるかを教えてくれた。

B 「沖縄所有権不明土地が語る戦後」(E TV特集、6月22日放送) は戦争で所有者が死んでしまつて所有者がわからない土地について熱心に調べている番組だが、土地台帳は残っていないし、決め手がない。

C ザ・ノンフィクション「やっつけないものはやっつけない」(フジ、6月30日放送) は相撲の復帰した蒼国来とプロレスに転向した霧の若の二人を追った。見ていると二人は無実だ、相撲協会のメンツと都合で二人は切られたのだ」とわかってくる。柔道界もそうだが国技の競技団体の運営には疑問を持つ。

D 「超巨大ダイオウイカ」(Nスベ、7月26日放送) 「謎の海底 サメ王国」(Nスベ、7月27日放送) はともに深海で撮影した映像で凄いい撮影技術だ。

NHKは海洋開発機構と長年協力してきたし、深海で撮影できるカメラの開発も行ってきた。5千、6千メートルの深海の映像を撮影できるのは世界でもこれだけだろう。

A 「巨大地震メカニクス」(NHK、3月11日放送) は現在の地震学の知見を網羅し、少し脅かし気味に防災を訴えている。昨年のリメイク。

B かなり予算を使って地震予知はやっているがやはり教えてくれるのは事後だ。世界でいくつものプレートの重なりで囲まれている国は日本以外にないだろう。火山の上でできた国に原発が50もあって、東日本の地底はあれだけめくられて、地底の歴史をみると1000年おき、2000年おき、1,000年おきの尺度で繰り返すのは確かだ。

C 災害の歴史を言えば「方丈記」は鴨長明47歳のとき書かれたのだが、それまで彼は大火に5、6回、地震に3回会っている。それが全部書いてある。「方丈記」は災害報道史だ。地震の多い時代だったのだ。江戸時代の地震は幕末に増える。江戸の災害は大火だ。

D 安政の地震が大きく、それ以前は富士山に宝永山ができた1707年の宝永地震が大きい。
A 世界的にみると日本の災害報道、警報はとびぬけている。こんなにこまかく伝える国はない。熱中症を注意し、「水を持参し、こまめに飲め」などと放送で繰り返す国はない。アメリカがハリケーンのときやるくらいだ。逆に災害のあとの検証は足りない。



松尾羊一氏



藤久ミネ氏



隈部紀生氏



河野尚行氏

【バラエティー】

B 今期は企画開発力に優れた新味のあるものが続いた。「YOUは何しに日本へ?」(テレビ東京)はいつもは空港で張っていて、やって来た外国人に「YOUは何しに日本へ?」と問いかけて、OKが貰えれば密着同行取材をする。

C 3、4チームで追いかけ、面白くないと思えば途中で引き上げる。番組をみると、お金をかけていないことがよくわかる。

D ドイツの若者の自転車日本一周のくだりは面白い。

A 「仕事ハッケン伝」(NHK)で先日見たのは、若手の女優さんが洗濯屋に行き洗濯、アイロン掛け、配達まで1週間で一応1人前の仕事ができるまでを追っていた。

B 富永愛が左官をやるのを見た。これは真剣でなかなかの迫力。どんな仕事にもこんな苦労とコツがあるのか、と思わせる番組だ。テレビ東京の「和風総本家」の現場体験版だ。

C 修業が始まるとタレントは顔つきが変わる。1週間真剣勝負して成果が出せるよう、受け入れ側にも説得している。迫力のある番組だ。

D 「鼻耕作のアジア立志伝」(NHKBS、木曜深夜)はアニメとドキュメンタリーでアジアのカリスマ経営者の苦難と成功を描く。中心は経営者へのインタビューで、劇画の作者弘兼憲史が本気で取り組んでいる。

A 探偵ナイトスクープ「10年以上口をきいていない夫婦」(朝日放送、4月5日9)は読者の「私の両親が口をきいたのを、どもものときからみたことはありません」という投稿を

探偵が調べると、子どもたちが赤ちゃんこの母親が子どもにばかりかまうことに父親がすねて、以来口をきかないという他愛ない理由。その両親を和解させてのハッピーエンドの物語りがネットで大評判になった。

B 「探偵ナイトスクープ」は25年続いている長寿番組で、CPは「全国アホバカ分布考」の松本修。現在西田敏行が探偵局局長、桂小枝、間寛平、松村邦弘などいろんな探偵がいて今回の探偵は竹山隆範。

C 探偵バクモン「性をめぐる大冒険」(NHK6月5日、12日放送)は爆笑問題が新宿2丁目にオカマ、レズ、バイセクシャルなどのセックスマイノリティーと座談会をし、彼ら向けの雑誌、グッズなどとその世界を紹介している。こうしたマイノリティーは世界的に市民権を得てきている。

D 探偵バクモンはバクモンがあちこちで常識をぶち破ろうとしている番組でときに非常に面白い。最初は先端の学問、研究所を訪ねていたがマンネリ化していた。

A 「池上彰の戦争を考える」(テレビ東京、8月11日放送)でもスタジオに多くのタレントを呼び、いろんなところで取材した映像をさみバラエティー化してやっている。

B 「真珠湾が何故卑怯か」という宣戦布告をしていないから。満州事変、支那事変と言つて戦争と言わないのは宣戦布告をしていないからだ。中国に対してはまったくいない「アメリカはリメンバーパールハーバーとうまく戦意高揚に利用した」などわかり易く解説した。

【スポーツ】

D 世界陸上が視聴率がいい。

A 勝つわけがないと思いつつ、男子マラソンを最後までみてしまった。女子マラソンは福土加代子が銅メダル。

B その前が水泳だ。陸上はTBS、水泳はテレ朝だ。

D プロ野球コミッションナーの件や大相撲の件の報道はどうも釈然としない。取材は社会部だが運動部に遠慮するのだろうか。

A いや放送権を考慮するのだろうか。

B 番記者と同じで力士や選手にかおなじみになつていないとスポーツの取材はできない。

C 柔道の上村はマスコミに叩かれているがこれまで取材してきた記者たちの評判は非常にいい。運動部の記者は全員弁護する。

D NHKが3夜連続で放送した「1964年東京オリンピック」を見ると、招致には日系二世の和田勇、平沢和重、田畑政治などが活躍している。田畑が南米に働きかけようという和田が奥さんと手弁当で出かけて行って10数回を獲得する、などのエピソードがあり、3人の高潔さ実直さに好感をもった。それに比べて今回の猪瀬の品の悪いこと。

A 今年、高校野球を全部みた。優勝候補がほとんど敗退しこんな面白い年はなかった。新聞、テレビの予想はみんなはずれた。準決勝、決勝と1点差ゲームで、チーム力は接近している。

B 優勝した前橋育英は監督の一家で息子は主将で4番、暴投して相手に点を与え、その後決勝打を打った。

C 甲子園ホームドラマだ。(笑)



鈴木典之氏

渡辺敏史氏

D 選手はいちいちベンチを見る。監督の指示待ち甲子園はウンザリ。

A いっそラグビーやサッカーなみに監督に背広を着せろ!(笑)

B 選手の自主野球だな。

D テレビの解説はやたらに選手に甘い。「うちの子」意識だ。たまには音声をラジオ中継にしてみるといい。1秒ばかりテレビ現実より早い(笑)ことがわかったり、心持ちラジオ解説のほうが辛口でいてさわやかだ。テレビはラジオに見習うべし。

A ざつと今夏テレビのあれこれ。日本のテレビは夏と正月前後がよく似合う。皆さん、またお会いしましょう。

【出典者】伊藤雅浩、腰野紀生、河野尚行、鈴木典之、藤久三、松尾羊一、渡辺敏史
◆千代田放送会館3階会議室で
◆8月23日(金)午後2時~6時

第35回・名作の舞台裏

連続ドラマ「御宿かわせみ」

2010年10月17日〜全5回放送

制作 NHK

日時・9月1日(土) 午後1時半〜

会場・イイノホール

ゲスト・真野響子、小野寺昭(出演)

村上 慧(制作)

黛りんたろう(演出)

司会・渡辺紘史(放送人の会)

今回は元祖「御宿かわせみ」から第1回作品「水郷から来た女」を上映。若い真野響子、東吾役の小野寺昭を中心にさまざまなエピソードを重ね(司会の渡辺紘史さんもちつてスタッフの一人だった関係で)会場で話題の場面の抜き取りシーンのサービスが効いて大いに盛り上がった。

武家の出で小太刀のたしなみもある庄司るいが大川端で旅籠を営んでいる。幼なじみの神林東吾とは恋仲で夫婦付き合いの間柄だが、正式な結婚はゆえあつて出来ない。いつものように東吾がやってくると、決まったように「かわせみ」を舞台に殺人事件が起こる。巻き込まれた東吾にしても吟味方の弟だ。親友の八丁堀同心の歌源三郎(山口崇)と組んで謎解きから一件落着までを綴る表向きは捕り物帳の仕立てで、本筋は若い十東吾の心模様。が四季のうつろいからんで展開される江戸末期の市井物語にある。

Q そもそも企画では苦労した?



村上 慧さん

村上「当時の二人はまだ無名に近く、まして約束の多い時代劇、でもそれが面白い。白塗りの東映歌舞伎ではない、NHK時代劇を創りたい。先輩は大丈夫かい?と不安がっていました」



小野寺 昭さん

小野寺「あの頃の僕は『太陽に吠えろ』の『殿下』でしたから(笑い)不安がないと言えは嘘ですが、ホームドラマ風時代劇サスペンスと聞いて、ちよつと大人のドラマを演る年になったし、いいタイミングでした」
真野「わたしって見ての通り大女でしょ(笑い)るいは小柄で可愛い。その落差をどう埋めよう。はじめは大変でしたけど、スタッフの方が若くて素晴らしいチームワークで助けてくれました。例えば(会場を眺め)そこに

いる衣裳の熊谷(晃)さん、お世話になりました。(場内拍手)



真野 響子さん



熊谷 晃さん

Q 黛さんは時代劇チャンネルで明治編の「新・御宿かわせみ」を作りましたが…



黛りんたろうさん

黛「真野さん主演で明治の『かわせみ』後日譚です。NHK×民放版ですが、キャストは懐かしい人々がです。期待してください」
最期に場内からのQ&Aで、「ぜひともNHKで再登場を」という声が多かった。NHKさんお願いします。(M)

連載 いろはに時代劇(その六)

菅野高至

「清左衛門残日録」の企画が通り次に時間枠が決まる。第1回は枠広げの74分で、第2回以降が49分枠となる。この49分、前年度の「腕に覚えあり」よりも4分も長かった。だが、長くなつても番組予算は増えないし、枠広げの予算も無い。ちりも積もりて山となる、ではないか。トータルすれば収録時間が伸びて、コストが嵩む。ダメ元で部長に掛け合う。4分×13回+14分=66分となるから、1本分の予算をと要求するが、あつさり一言「ナイ」と拒否される。

まあ、立ち回りが殆ど無いし、静かな佇まいの城下町だから、エキストラもそう多くは無さそうと諦める。要は「中身で勝負だ!」と、私は納得したが、大変なのは脚本家である。竹山さんは、各回49分と聞くと、覚悟を決めるように「民放の1時間ものだね」と呟いた。今、改めて計算してみる。民放の1時間ものの54分は、コマシヤルの6分を差し引くと、48分になる。そうか1分も長かったのだ!本当に、竹山さんは大変だった訳だと、今更だに思うのだ。

それにしても、最近のドラマはやたらにリレーンが多い、多すぎて煩いと感じてしまふ。視聴者が分からなくなつたら、チャンネルを変えられる作り手の強迫観念のようだが、これほどまで、お客様を信用しなくて良いのだろうか。お客様を馬鹿にしたような商売は成立する筈もないと思うのだが…。

老いの繰り言は、さて置く。

「清左衛門残日録」の放送があった1993年と前年の世相を振り返ってみる。92年は100歳のきんさんぎんさんがブームとなり、4月からはNHKの「ラジオ深夜便」が定時放送になる。高齢化社会が現実になっていった。流行語大賞は「冬彦さん」。TBS金曜ドラマ「ずっとあなたが好きだった」全13回（7・3〜9・25）、最終回の視聴率が34・1%になった。93年は皇太子の婚約発表で始まり、「雅子さん」ブームが起こる。

92年2月、政府が「バブルの崩壊」を公式に認めて、景気の後退が続き、93年卒の大学生たちは「就職氷河期」に見舞われる。この時、「失われた10年」がすでに始まっていたのだ。勿論、私は気づくはずも無い。番組の広報用資料には、「高齢化社会を迎えた日本。ご年配の方は、かくありたいとの“応援歌”として、若輩の方々には、高齢者との折り合いのノウハウとして——。（略）楽しんでいただくドラマです。」と書いた。思えば、あまりに牧歌的で恥ずかしい。

脚本家の竹山さんも、私も、老いの実感は無かった。どちらかというと、老いへの夢のようなものを持って、抵抗していた。だから、四十半ばの二人が、枯れた清左衛門を掛けるわけがない、描いても嘘になる。では、どうするのだ？

竹山さんの答えは、「老いても華やいでいたい」、そう考える清左衛門だった。女将のみさも、折角のかたせ梨乃さんだからと、原作より少し艶を出して書いてきた。作品全体に、艶っぽさを、どれほど加えるか、そのさじ加減をめぐる、竹山さんと私の戦い(?)と

なった……。

そして漸く、第1回の台本が完成した。決定稿である。ドラマ部の各CPや編成など関係セクションに配る。

と、帰ってきたリアクションが「いいけど、地味だね、これは！」というもの。

「いいけど」は小声で、「地味だね、これは！」が、エコー付きで耳元で響いた。でも「仲代さんだから大丈夫です、かたせ梨乃さんも、いるし」と笑顔で必死の抵抗を試みる。

と、「どうせ仲代さんは眼を刺くんでしょ、鬱陶しいなあ」と、切り捨てる。「かたせ梨乃！色っぽすぎて主婦には受けられないよ、極妻でしょ!」と、冷たい眼差し。「いえ、藤沢周平ですから」と、もう開き直るしか無い。

局内の「地味だね!」コールは、第1回放送後も、暫くは続いた……。

仲代清左衛門が、原作からはみ出して、艶っぽくなるのは、第4回「川の音」がきっかけだった。清左衛門が農婦みよ（石野真子）の白く健康な太股にクラクラつとする。出来た嫁の里江（南果歩）が、それに何となく気づいて、清左衛門に嫉妬する。清左衛門も、里江の気持ちがかかって、つい涌井のみさ相手に愚痴をこぼし、したたか飲んで酔っ払う。里江には、翼は理想の人だった。その理想がやとと帰ってきた。迎えに出てみれば、飲んだくれの駄目な男がだらしくふらついていて……。

稽古場で、演出の村上が仲代さんに、「三分に酔っ払って、グジュグジュになって下さい

い」とダメをだした。それから、仲代清左衛門が次第に艶っぽく立ち上がってくるようになる。

一方、ホン作りは、毎回毎回、無手勝流が続いていた。我ながら情けなかった。台本が出来て、なるほど言う話だったのかと、気づいたりもしていた。自分の中で、漸く折り合いがついたのは、第5回「平八の汗」が終わった頃である。やとと気づいたのだ。原作の短編で、小説家がエンドマークをつけた登場人物が、その後の人生をどう生きるかを想像して、それから物語を立ち上げれば良いのだ、と。彼らの人生のゴールが自分なりに見えてくれば、ドラマが動き出す。これで少しはましなホン作りになる、と気が楽になった。

克蘭クインから2か月後、第1回が完成して、藤沢さんにビデオを送る。だが、なかなかリアクションが帰ってこない。不安がよぎる、艶を出しすぎたのか!「不興なのか!」文藝春秋社の担当編集者、萬玉さんにそつと伺う、何か漏れ聞いていないでしょうか、と。「いや、聞いていない、まだ、見てないのかなあ」と言う。

それから、身が縮む思いで待つこと暫し。放送日も近い3月30日の午後、藤沢さんからやとと葉書が届いた。

「冠省、いそがしい締切り仕事があつて、頂戴した「清左衛門残日録」第1回を本日よりと拝見しました。

上々の作品と思えました。原作「残日録」の軽みを随所に生かし、また心配した武家の作法という点も大筋できっちりとした、

しかも型にはまらず大変けっこうでした。配役では財津一郎が水を得た魚のような好演、また南果歩のキャラクターがとてもよく生きて、これは配役の妙ではないでしょうか。仲代達矢はさすがに存在感があり、このひとの主役は正解、大あたりという気がしました。

固い一方ではなくこちらもちよつと軽味があるのですが、財津の八方やぶれの軽みとは違い、少し不器用なところがいいと思いました。スタッフの健闘を祈りながら、先を楽しみにしましょう。匆匆

さらに、余白に「佐藤慶は一回だけではもつたいないような賞禄ですね」と書き添えてあった。生き延びた……。この葉書一枚で、最終回までたどり着ける、そう私は確信した。

高校放送部制作・被爆者DVD

会員の三宅恭次さんから「語り継ぐ高校生による被爆者証言取材プロジェクト」と題するDVDが届きました。

三宅さんは元中国放送。退職後、広島安佐ロータリークラブに所属し、今回広島市内の放送部のある高校に働きかけ、被爆者の証言を取材してもらいました。4つの高校放送部が4人の被爆者取材し、編集、音入れ、完パケ作業をこなし、完成しました。プロの手は入っていませんが、ここには被爆者と向き合った若者の感性があふれています。

ご覧になりたい方は編集部・伊藤へご連絡ください

『未来へのアーカイブ』

原発事故・放射能汚染の過去／未来

日時・2013年7月13日(土) 14〜17時
会場・東大駒場キャンパス21KOMCEE

(理想の教育棟) レクチャーホール

司会・西 兼志 (成蹊大文学部准教授)

講師・倉澤治雄 (科学ジャーナリスト)

桜井 均 (元NHKプロデューサー)

石田英敬 (東大情報学環教授)

主催・放送人の会・東京大学情報学環

協賛・白鷗大学総合研究所メディアセンター

この講座は、番組アーカイブを利用し、テレビドキュメンタリーと時代の潮流との関わりを論じて来ましたが、東大情報学環と共催する今回は「3・11」大災害の象徴として国際的関心と呼ぶ「福島原発事故」放射能汚染(「フクシマ」問題)について、テレビ報道の「自己検証」の形で考えてみることにしました。「原発」は是非かの議論ではなく、「フクシマ」の事態から日本には何が欠け、何を学ぶべきかを、テレビの「記憶」(番組アーカイブ)を辿り直すことで整理してみようというわけです。「未来へのアーカイブ」と題したゆえんです。

講師・倉澤治雄さんが、先ず、福島原発の事故はなぜ起こったのか、防ぐことはできなかったのかを、検証します。倉澤さんは民放きつての専門的な科学ジャーナリストで、事故当時、日本テレビの解説主幹として報道に

当たり、混乱の中正確な事実を伝えることに心を砕きました。後にNNNDドキュメント枠で『活断層と原発、そして廃炉』などの先導的な作品を制作・監修しています。



倉澤治雄さん

倉澤さんは、東大の研究室との共同作業で『スパイダーシステム』(テレビ番組情報を映像・文字に集積し、内容を比較分析できる画期的手法)を駆使して、当時の刻々のニュースを再生し、原発現場で進む現象と政府・東電発表のズレや違い、発表を受けた各局ニュースの内容の不備や足並みの乱れなど、3者間の混乱ぶりを再現してみせました。この実証をもとに、倉澤さんは、正確な情報伝達がその後も欠けており、事故、被害、対応の全容が今以って掴めないと憂慮し、「原子力防災」の実践的基準作りを国は急ぐよう主張しました。専門性や科学性も含め、レベルの高い、しかしわかり易い話でした。倉澤さんが原子力災害の「予防」を訴えたのに対し、次の講師・桜井均さんは放射能被害の「予見」で警鐘を鳴らしました。桜井さんは、27年前のチェルノブイリ原発爆発事故以来追いつけてきた放射能汚染被害の推移を、NHKの12本のドキュメンタリーで紹介し、「フクシマの未来」に重ね合わせ

てみせたのです。桜井さんが特に強調したのは、放射能が子供に及ぼす健康障害のひどさで、事故発生直後から今日に至るまで、甲状腺異常やガン、白血病、心臓・血管障害などが後を絶たず、勿論死者も増え、これに胎内被曝や成年後発症の例を加えれば、ウクライナ他現地・隣接国の政府や医療機関も頭をかかえる深刻さが続いています。



桜井均さん

NHKは昨年4月に『埋もれた初期被曝を追え』(Nスペ)で、福島の爆発直後の初期ヨウ素131の計測を怠った国の手落ちを厳しく追及しましたが、大量にヨウ素を吸った子供には4年後位から甲状腺障害が出はじめ、少量だった子ども(アメリカ水爆実験地のビキニ環礁の島々でも)も20年以上経ってから症候が出るのが実証されているから、しかも、福島の地元では国が不可能だったと発表した計測が一部の自動計測装置では行われていたことが突き止められ、広範囲にヨウ素が飛散していることが推測できたからでした。桜井さんは「これだけでも一定の仮説は成り立つ」とし、国のこの「不作為」は将来追及される可能性があるとして語り、その役割と責任が予見される今テレビはどうすればいいのかと問いかけました。

最後に、東大・石田英敬教授は大略次のように述べました。



石田英敬さん

「フクシマ」は風化しつつある。確かに我々は、あの時テレビを通してリアルタイムで全てを見た。しかし、今のままでは何も見なかったことになりかねない。一時的な大量情報は忘却速度も速い。フクシマ後にテレビが何を語るか、それが大事だ。なぜなら、テレビはあの時、核事故の本質については「見えない、近づけない、知り得ない」の3重の不可能(盲目性)をさらけ出したに過ぎない。つまりテレビの日常力は無力化し、それが覆せていない。テレビはあの時流した膨大な情報を、自ら「2次加工」し、記憶を整理して発信しなければ、役立たずに終わる。今日の試みは、その点貴重で、学問的研究の励みにもなる」。

後半の討論では、NHKの原発特番シリーズを支えた七沢潔さん(現・放送文化研究所主任)が会場から発言し、「放射能汚染問題は矮小化されがちだ。国民が「原子力災害」全体を見通す力をも身につけていくことが大切だ」と強調し、共感を誘いました。

(文責・鈴木典之)

第13回 日韓中テレビ制作者フ ォーラム 中国・無錫大会

期間 2013年10月14日(月) 17日(木)

場所 中国・無錫広電传媒センター
(無錫テレビ局内)

宿舎 無錫大飯店

参加者 各国約35人

作品テーマ 「旅・情け、幸せな夢」

参加作品

「ドキュメンタリー」

「新日本風土記・東北の春」 NHK

「ドラマ」

「とんび」 TBS

「エンタテインメント」

「YOUは何しに日本へ」 テレビ東京

「ノンジャンル」

「希望の翼」 テレビ神奈川

大会日程

第1日目

14:00~17:30 空港迎え ホテル着

18:00~ 歓迎晚餐

19:30~21:30 作品鑑賞・討論

第2日目

9:00~9:40 開幕式

9:50~10:10 記念写真撮影

10:20~11:50 趣旨講演

12:00~ 昼食

13:30~17:30 作品鑑賞・討論

18:00~ 晚餐

19:00~21:30 作品鑑賞・討論

21:00~ 自由時間

第3日目

9:00~11:50 作品鑑賞・討論

12:00~ 昼食

13:30~15:30 研究討論:TVはどの
ように現実生活を表現するか

15:40~17:00 閉幕式 表彰式

17:10~18:50 太湖観光

19:00~ 晚餐

第4日目

8:00~ 靈山勝境参観

11:40~ 昼食(靈山)

13:30~ 各方面代表帰路(空港送り)

無錫案内

無錫市は少し古い統計ですが、戸籍人口464万人、常住人口611万人の大都市です。上海から南京に向かう特急列車で28分、太湖の北岸に位置します。

BC202年、前漢のとき作られた城壁都市で、「魚米の郷」「布の港」と呼ばれて栄えてきました。日中戦争のとき破壊され、そのときの死者は1万4千人とされますが、戦後発展し1981年経済中心都市に、1984年、重要観光都市に指定されています。

外資系企業を積極的に受け入れており、日本系企業の進出は1,000社を超え、市内に在住日本人の交流機関「日商倶楽部」もあります。

食事は上海、蘇州と似たものと考えていいのですが、「無錫排骨」(ウーシーパイグー、

豚のバラ肉を甘辛く煮込んだもの)と小籠包が名物です。



写真右は錫惠公園の中にある奇暢園です。

錫山と恵山にまたがるのが錫惠公園。錫山は昔錫を産したのですが、前漢の時代にすでに掘りつくして、「無錫」になりました。恵山には天下第一泉と呼ばれる名水「惠泉」があります。奇暢園は乾隆帝が何度も訪れ、これを模して北京の頤和園を作りました。

蠡園という庭園もあります。越王勾践に仕えた范蠡が職を辞した後、美女西施と暮らしたところだそうです。1930年、当時の実業家を作りました。

北京の中央電視線がテレビドラマのために作った三国城、水滸城というオープンセットもあります。三国志や水滸伝の撮影のためのものでしょう。

市内には隋代からの大運河があり、そこを運行する小舟でのクルーズが観光客の人気です。

す。左は南禅寺の近くの運河の風景です。



4日目に観光が予定されている靈山は右の写真のところで、大きな仏像が有名です。

秋山ちえ子さん健在

武本宏一

去る8月10日、元ニッポン放送の高崎一郎さんが亡くなった。82歳だった。

高崎一郎さんといえば、昭和42年にスタートしたLFの深夜放送「オールナイトニッポン」の初代パーソナリティー。

彼の死去で、同じラジオ深夜放送で人気を三分したTBSラジオ「バックインミュージック」の野沢那智さん、そして文化放送「セイヤング」の土井まさるさんなど、皆さん鬼籍に入ってしまった。

当時深夜放送を支えていたのは、ちようど大学受験期にさしかかった、いわゆる団塊の世代の若者たちだった。その彼らもあれから46年……。そろそろ年金をもらえる老境に入りつつある。

老境といえば、この8月15日終戦記念日のラジオに、96歳を迎えてなおカクシヤクたる老婦人が登場した。

その昔、TBSラジオの帯番組「昼の話題」などで活躍した秋山ちえ子さんである。

終戦記念日のラジオといっても、各局とも特に戦争をテーマにした記念番組が並ぶということもなく、「風化」の2文字が頭をかすめたほどだ。

その中で、TBSラジオの「大沢悠里のゆうゆうワイド」の1コーナーに「かわいそうなぞう」という朗読コーナーが今年も組まれていた。

戦争末期に上野動物園にいた猛獣たちが、万一場合危険だ、というのでみな毒殺させられたのだが、その中には3頭の象がいた。そのゾウの最後を語るのが秋山ちえ子さん。

実は、10分足らずのこの物語を、彼女は今年から45年も前に初めてラジオで語り、以後毎年続けて今年はその46回目の朗読になるという。

生放送を聴いた。司会の大沢さんの「やあ、よくいらつしやいました」に秋山さん「私、今年でいくつになつたと思う?」「えーつと、22だっけな」。

軽いやりとりで、彼女がまだまだラジオパーソナリティーとしてのセンスを失っていないことが分かる。

今年はずっとしたサブライズがあった。というのは、アメリカの女性歌手シンディ・ローパーがこの物語にたいく感動し、英語版をCDに吹き込み、その挨拶を「ゆうゆうワイド」向けに寄せてくれたことである。

続いて秋山さんが、もう御馴染みになつた「かわいそうなぞう」を朗読した。

動物園に残つた最後の3頭のゾウ。ジョン・トンキー、ワンリーは、匂いをかいだだけで毒入りのジャガイモを食べてくれない。万策尽きた飼育係たちは、やむなく餌を止めて、死に至らしめようとする。

が、3頭は、覚え込んだバンザイの芸、前足と鼻を高々と掲げてみせる芸を何度もくり返し、餌をねだる。が、結局3頭とも15日ほどで餓死してしまうのだった。

淡々と、反戦の物語を語る秋山さん。さす

が「昼の話題」「秋山ちえ子の談話室」を通して45年間、1万2千回以上も生放送をこなし、パーソナリティーは、今なお少しも精神の衰えを見せなかった。

大沢「来年もぜひお願いしますね」
秋山「生きていたらね」

朗らかな笑い声がスタジオを出て行った。

まっさんのラジオデイズ

田中秋夫

さだまさし君(以下まっさん)の事務所からデビュー40周年記念のアルバム「天晴くおールタイム・ベスト」を頂いた。デビュー当時から現在まで500曲を超える彼の楽曲の中からWEB投票やアンケートで選ばれた珠玉の39曲がCD3枚におさめられている。小説「風に立つライオン」やNHKBBSのドラマ「かすていら」も話題となり、今やシンガーソングライターの枠を超えたマルチな才能を發揮し、存在感が増している。

まっさんとの最初の出会いは39年前、デビュー1年後の1974年の夏だった。その前年、彼は故郷、長崎で高校時代のバンド仲間だった吉田正美とグループを結成し「雪の朝」でデビューした。翌年4月には第2弾「精霊流し」がヒットの兆しが見えはじめ、活動の拠点を東京に移した直後に出会ったのである。そのグループを文化放送の深夜放送「セイヤング」のパーソナリティーに売り込みがあった。しかし、デビュー直後の新人にいきなり2時間半の生番組を担当させるには一抹

の不安があった。そこで、既にレギュラー担当で人気を集めていた谷村新司の代打に起用することでオーディションに代えることにした。当時、彼はかなり痩せ型で眼鏡をかけた神経質そうな風貌だったが、いざ本番のスタジオでマイクに向かうと「落研」仕込みの見事な明るいトークを披露してみせ、レギュラー陣への起用はすんなりと決まった。彼のコーナーに於けるトークの面白さは定評があるが、その才能はこの頃から開花していた。

その年の10月から「グループのセイヤング」がスタートすると、たちまち人気上昇していった。彼が番組で拘っていたのはリスナーからの葉書だった。忙しい日程にもかかわらず、毎週、膨大な数の葉書に必ず目を通していった。そして本番では必ず葉書を読む前に「いらつしやい」と挨拶していた。彼は「葉書に思いを込めて書くよね、そこに本当に伝えたい怒り、悲しみは滲み込んでますよ。僕はメールやFAXは読まない。」と言った。

この番組にとって最初の危機は裏番組の「オールナイトニッポン」タモリからの中傷だった。「さだは暗い、ダサイ」とのキャンペーンがなされたのだ。若者の間で「ネアカ」「ネクラ」という言葉が流行り、「ネクラ」が「いい」の対象になった時代である。しかし、彼はその中傷に耐え続けた。というよりも本来の明るい性格をさらに發揮していった。その結果、やがてその中傷も自然消滅していった。後に「明白宣言」が発表された頃、女性解放運動家から受けた「女性差別主義者」との攻撃も含め「有名税」ともいべき現象だったと言えよう。

やがてグレイプが解散することになり、グレイプのセイヤング」は1年半で惜しまれつつ終了した。

土居まさる、みのもんだ、落合恵子たち局アナが活躍した時代が「セイヤング」の第1の黄金期だとすれば、まっさんは谷村新司、笑福亭鶴瓶と共に第2の黄金期を築いた功労者である。1981年秋、改編で帯番組の「セイヤング」が終了する話を聞きつけると、彼は音楽活動で超多忙にもかかわらず「セイヤング」の灯を消すな」と自ら名乗り出て、番組の復活を局の上層部に訴えた。局側はその熱意に動かされ、その年の10月から毎週土曜日夜の「さだまさしのセイヤング」をスタートさせた。彼は忙しい日程でも録音形式にすることに納得せず、生放送を原則とすることも主張した。その結果、彼のコンサート先に合わせて全国各地の放送局から送出する為、我々スタッフも同行することになった。彼はこの番組を「リスナー同志のコミュニケーションの場」と位置付け、自分を「コミュニケーションセンターの議長」と呼んでいたが、まさにそこにはラジオを通じた「コミュニティ」が成立していた。やがて、全国の大学や地域でリスナーたちが「さだまさし研究会(さだ研)なる団体を結成するに至った。この番組は1994年4月まで続き、帯番組時代と合わせて24年10カ月の放送に幕を降ろした。思えば楽しい日々だった。彼のラジオデザイン「天晴れ!」を。

第39回放送人句会

◇平成25年7月10日(水) ◇於:赤坂・麦屋◇出席:伊藤親郎、上村晁蛙、萩野慶人、豊田まつり、中島文博、新村もとを、堀川とんこう、森恰美、西川阿舟(九人)

◇不在投句:大山勝美、鶴橋康夫、山県ほん太
◇兼題:青風、サングラス、金魚、駄目出し

【互選特選】

肩抱けば口にくはへしサングラス とんこう
笑ふかに泣くかに金魚母逝く日 康夫
藻にひそむ貞子といふ名の黒金魚 とんこう
老い痴れて出目金の餌三日分 康夫
野の花を投げ入れもして金魚鉢 丈博
サングラス私のないといふ濃さの まつり
綿菓子と並んでしやがむ金魚釣り とんこう
ダメが出て籠の蜚をまた放つ とんこう

☆
サングラスお国訛りのまだ抜けぬ ほん太
用水の金魚いづこへ空爆の夜 晁蛙
サングラス敵意あるかにすれ違ふ もとを
紅き金魚白磁の盤に放たれぬ 晁蛙
青風に泳ぎ近づく妻のパラソル 康夫
ダメ出しの声渡りゆく夏野かな 治美
逢ひ初めしきみが浴衣に金魚のて 丈博
あをあらし紺のピースを肺深く まつり
飼育され夢諦めし金魚かな 慶人
ひと枝をもぎて青風鎮まりぬ 丈博
金魚の眼何を好むか嫌ふのか 慶人

青あらし宿場女郎の無縁星 ほん太
提灯のように金魚を持つており 視郎
青あらし田空仏の堂明り ほん太
初めての記憶や赤き泳ぐ金魚 まつり
駄目出しの代りに寝る夏夢居 もとを
西陽さけ金魚鉢置く場所さがし 勝美
一匹も金魚揃はず時は逝き まつり
餌をやるつち金魚可愛いくなりけり 阿舟
青風吊り橋渡る親子猿 晁蛙
愚痴一つ言ひたき様の金魚かな もとを
鳥騒ぎ金魚が姿を消した夏至 とんこう
駄目出しはアイスクリーム食へてから 視郎
青風やあの日のシユプレヒコール耳の底

事もなしたまゆら金魚仰向けに 康夫
前山に起るウエーブ青風 ほん太
妻を待つ窓の外には青風 阿舟
なにもかもまとまらぬ日の青あらし 康夫
サングラス掛けて頼みせし日々も 阿舟
放たれて百円金魚狂乱す ほん太
埒もなき又のため出し戻り梅雨 ほん太
駄目出しに主演女優の声涼し 阿舟
天空の城を巡りて青風 晁蛙
駄目出しが論争となる夜の秋 阿舟
町場からとついだ嫁や青風 もとを
影法師揺らせやまざる青風 晁蛙
サングラス外す逢引き青き味 康夫
駄目出しに女優ふくれて夏日昏れ 丈博
青風この登り坂遅刻坂 視郎

新刊紹介

萩野靖乃『テレビもわたしも若かった』
(武蔵野書房刊・二千円+税)



著者萩野靖乃さんはNHKでディレクター、プロデューサーとして活躍され、一九六〇年代後半から八〇年代に多くの秀作ドキュメンタリーを世に出し、また伝説的な若者番組『YOU』の初代プロデューサーでもありました。昨年四月に萩野さんが亡くなられた後、NHKでの仕事や番組について記述した長文の原稿が遺されていました。

本書は、その遺稿を中心に、メディア研究者の質問に答えて自身の番組について語ったインタビュー、それに萩野作品の中から六本のドキュメンタリー番組の台本再録を掲載して一冊にまとめたものです。

本格派のドキュメンタリストとして番組作りに取り組んだ萩野さんの足跡は、そのまま、ある時代のテレビドキュメンタリーの実像を伝えています。「放送人の会」の皆様にもぜひお読みいただきたいと思えます。

書店等で手に入りにくい場合は武蔵野書房
(042-680-5270)へ直接、または
Toda-k@da.wakwak.com 03-3317-5171
の戸田桂太まで依頼ください。

【あ】青木裕子 赤井朱美 秋田完 秋山豊寛 雨宮望 新井和子 【い】池田正之 石井彰 石井ふく子 石高健次 石橋冠 磯野恭子 磯村健二 市岡康子 市村元 一色伸夫 伊藤雅浩 井上佳子 井上良介 今井義典 岩澤敏 【う】上村忠 磯井広義 白杵敬子 歌田勝彦 宇野昭 【え】江口展之 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大蔵雄之助 太多亮 太田敬雄 太田昌宏 大西康司 大西文一郎 大原れいこ 大山勝美 大類啓 岡弘道 岡田晋吉 緒方陽一 岡村黎明 小河原正巳 沖野暁 荻野慶人 小田久榮門 織田晃之祐 【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 勝部綱樹 葛城哲郎 加藤滋紀 加藤節男 加藤迪 加藤義人 金子敏子 金子登起世 兼歳正英 金平茂紀 加納孝夫 鎌内啓子 上安平冽子 鴨下信一 川口健一 川口幹夫 河村正一 【き】岸田功 北川泰三 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 久保志穂 隈部紀生 【こ】小池勝次郎 河野尚行 児玉久男 後藤和晃 小山紳人 近藤晋 今野勉 【さ】斎藤伸久 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江 桜井均 佐々木彰 佐々木敏三 佐藤年 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 志津木敬 四宮康雅 柴田昌平 嶋田親一 清水満 下崎寛 下重暁子 白井博 【す】菅野高至 杉澤龍太郎 杉田成道 鈴木昭典 鈴木典之 鈴木道明 鈴木嘉一 須藤章 【せ】関佳史 せんぼんよしこ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 武本宏一 田澤正稔 田中昭男 田中秋夫 田中直人 田中則広 田原茂行 【つ】辻本昌平 露木茂 徳橋康夫 【と】堂本暁子 戸田桂太 外崎宏司 豊田由紀子 豊原隆太郎 【な】中崎清栄 中島僚 中田美知子 永田浩三 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村敏夫 中村美美子 中山和記 並木章 難波秀敏 【に】新村もとを 西ヶ谷秀夫 西川章 二宮文彦 丹羽美之 【の】偃井文夫 【は】橋本深 林健嗣 原由美子 原田令嗣 【ふ】深町幸男 藤井チズ子 藤久ミネ 【ほ】星田良子 堀川とんこう 【ま】前川英樹 松尾羊一 松平定知 松前洋一 松本修 薫りんたろう 【み】三上義智 水上毅 水野憲一 三原治 三村景一 三村千鶴 宮川謙一 三宅恭次 明神正 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】諸橋毅一 【や】八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山泉昭彦 山崎隆保 山崎裕 山銘家子 山田尚 山田良明 山根基世 【よ】横山英治 吉澤保 吉永春子 吉村直樹 【わ】渡辺敏史

新入会員紹介

加藤節夫 (かとう せつお、元TBS)

TBSラジオで編成 番組制作。「バック・イン・ミュージック」「土曜ワイド・ラジオT OKYO」「ゆく年くる年」他を担当。アジア向けテレビ放送(JET)の立ち上げ、運営。CS・BS・地上各デジタルデジタル放送の立ち上げ。中国、日本での大学における冠講座の立ち上げ運営、など。

関 佳史 (せき よしひみ、テレビ神奈川)

音楽番組を長年担当。その後編成部長、営業部長、営業局長、現在役員待遇編成局長。音楽番組「SAKU2」モーニングコール(立ち上げく2002)、ドラマ・映画「アイヌ・ネコシリーズ」は立ち上げから今年で10作目系列4局、独立局8局を組織して制作委員会となるまで育てた。この7年間に東名阪ネットレギュラー番組35シリーズ、映画19本を製作。

「希望の翼」で放送人グランプリ特別賞受賞。

訂正

前号で紹介した新会員のお名前が間違っていました。小山紳人ではなく、紳人 です。お詫びして訂正します。

編集後記

▼会報バックナンバーを動員しての新入会員獲得キャンペーンと恒例夏の座談会で20ページの大部になりました。じっくりお読みください。入会候補者にもどんどん配って読んでいただきたいと思いますが、大部でプリン代がかさむのが悩みです▼9月の放送人旬会は会報発行直前で掲載できませんでした。次号(11月初旬発行予定)に掲載します▼日韓中フォーラム無錫大会に参加するため航空券を買いに旅行代理店へ行きました。2ヶ月前、8月12日以前でないと割引はありませんし、代理店で買うと6千500円の手数料を取られるというので、ネットで買うことにしました。しかしネットでは滞在先の電話番号の記入が必須事項で受け付けられず、思いきって直接ANAへ電話すると実に親切で簡単にEチケットが受け取れました。結局、直接電話をかけるのがいちばんよかったです。皆さん上手に買えましたか?▼旅行代理店には中国行きバックツアーのカタログが見当たりませんでした。「全く人気がなくてツアーの企画がありません」とのことです。日本人は中国に行きたくなかったのでしょうか▼2020年のオリンピック東京開催が決まりました。日本中大騒ぎで株価も上がりました。テレビも4Kに向かって加速するのでしょうか▼「それまで生きていたかなあ」なんて言わないで元気をたしましょう。(祝郎)